

東京都庭園美術館

事業名	会期	概要
「岡上淑子 フォトコラージュ 沈黙の奇蹟」展	2019年1月26日～4月7日 20時まで特別開館: 3月29日、30日、4月5日、6日	1950年代に彗星のごとく登場した岡上淑子は、日本のシュルレアリスム運動を主導した瀧口修造に見出され、その才能を開花させました。戦後復興期の東京で入手した、 グラフィック雑誌の写真画像を切り抜いて制作したコラージュ作品 は独特の美しさを湛え、今や国際的な評価を得ています。本展では、国内外に所蔵されている約100点の作品を中心に、その活動の軌跡を展覧します。
「キスリング」展	2019年4月20日～7月7日	1891年にポーランドのクラクフで生まれたキスリングは、1910年にパリのモンマルトルで画家としての活動を始めます。ピカソやブラックとの出会いからキュビズムの影響を受けましたが、対象に対する深い観察力と鋭い感受性から、間もなく独自のスタイルを確立しました。その 洗練されたレアリズムと輝かしく官能的な色彩 によって、キスリングはエコール・ド・パリの作家たちのなかでも、特に長く愛されてきました。本展では約60点の作品によりキスリングの画業を振り返ります。
「建物公開 1933年の室内装飾」展	2019年7月20日～9月23日 21時まで特別開館: 7月26日、8月2日、9日、16日、23日、30日	本展は、1933年に竣工した朝香宮邸の建築としての魅力を紹介する、 年に1度の建物公開展 です。今回は、 建物の室内を構成する要素—木材や石材、タイル、壁紙、家具など—に焦点を当て、その素材や技法、携わった職人や企業について、工事仕様書やカタログ等の資料から解き明かします。
「アジアのイメージ」展	2019年10月12日～2020年1月13日 20時まで特別開館: 11月22日、23日、29日、30日、12月6日、7日	近現代の日本人が、 東アジアの古典美術を学ぶことによって日本美術を多様化させてきた軌跡を明らかにします。 展示部門「これまで」では、東アジア各地で発見された遺跡資料や考古遺物と、それに触発された 近代絵画、工芸品 を展示し、「これから」では、現代の日本人作家が東アジアの古典美術に触発されて制作する 新作オブジェ を展示します。
「ルネ・ラリック」展	2020年2月1日～4月7日 20時まで特別開館: 3月27日、28日	アール・ヌーヴォーから、アール・デコにいたる フランス装飾美術の展開のなかで常に中心的存在として活躍したルネ・ラリック。 本展では北澤美術館コレクションから、ラリックのガラス作品の変遷を紹介します。あわせて、旧朝香宮邸の室内装飾におけるラリック作品の意味を検証します。

※この内容は平成31年3月7日現在のものです。事業名は変更する場合がございます。会期は予定です。
詳細は東京芸術劇場広報担当にお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都庭園美術館
〒108-0071 港区白金台5-21-9
電話 03-3443-0201 FAX 03-3443-3228
<https://www.teien-art-museum.ne.jp/>
※ 開館時間: 10時～18時 (夏休み期間の金曜日は「サマーナイトミュージアム」実施のため21時まで開館)
※ 休館日: 第2・第4水曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)